

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 CL大川、SL桐原、田村

以上3名

2 山城・ルート 北アルプス 劔岳 本峰南壁A2

3 交通手段 電車 車 バス

4 行動記録

入山日 2017年8月12日 山中2泊

8/12 7:30 ケーブルカー乗車→バス→9:00 室堂ターミナル 雨のため停滞 11時出発 →
雷鳥荘→劔御前小舎→14:00 劔沢キャンプ場(泊)

8/13 劔沢キャンプ場 2:00→劔山荘 2:30→一服劔 3:00→前劔 4:00→平蔵のCOL
5:00→A2 取り付き 5:30→劔岳山頂 10:00→山頂出発 10:45→平蔵のCOL 11:15
→前劔 12:00 一服劔 12:30→劔山荘 13:00→劔沢キャンプ場 14:00 テント泊
(行動時間 12時間)

8/14 5:00 出発→5:50 劔御前小舎→7:00 雷鳥荘→7:30 ミクリガ池温泉(休憩)→8:00 室堂
ターミナル

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

はば、予定通り行動。

b 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか 発生した場合は具体的に記す
特になし。

C 感想

(感想 田村)

昨年は別山尾根での劔岳登頂でした。劔沢小屋泊であり、同日に山岳会の皆さんがバリエーションルートを登頂されていたのはお聞きして、小屋でチラッとお会いして凄いなーと遠目に拝見していた感じでした。昨年からの錬成 RC への参加に手を挙げていたものの本当に実現するとは実は思ってませんでした。RC の練習になるかな位の軽い気持ちでの参加で、多分最後まで到達することはないだろうと思ってました。所が実現しました。驚きです。とにかく続けて諦めなければ出来るものだと実感です。本番、取り付きまでの雪渓が一番難儀しました。アイゼンの使い方がまだまだ未熟！南壁 A2 は他のパーティが後方にいなかったのがラッキーでした。ゆっくりクライミングを楽しめました。5ピッチ目のリードを担当しました。初めての場所でルートはこれでいいのかな、ハーケンがあるからこっちでいいんだろうなという感じで進んでいきました。手にした岩がぐらついて冷やっとした場面もありでしたが、何だか空中散歩しているようなワクワク感満載でした。でも「ザイル後 1.5m」という声が聞こえ、周囲を見回しても支点を作れそうどころが見当たらず焦りました。ここで作るしかないなと足場はしっかりしてましたが、2点(ハーケンと岩)を支点としザイルアップ仕掛けた時に背部の岩がぐらつきこのままだと岩が落ちるかもと思い途中で向きを変えたので、無理な体制でのブレイとなり、お二人にはご迷惑をお掛けしまし

た。もっと実際の岩場での支点作りの経験を重ねていくことがこれからの課題です。無事登頂、下山できたこと沢山感謝です。頂上で源次郎チームの方々に再会できたのも思いがけず感激でした。テン場で八つ峰チームのお二人が戻って来られ皆が揃ってホッとできた瞬間でした。テントでの連泊も初めてで、山岳会での山行ならではの体験が色々できました。ほんとにお世話になりました。最後まで一緒にトレーニングを重ねてきたIさんと行けなかったのは残念でしたが、また次回楽しみましょね。

(感想 桐原)

去年に続いて 2 回目の錬成山行だった。当初は北方稜線を考えていたがパートナーがいなかったので本峰南壁に変更した。

今回の山行は岩壁登攀なので期待とともに不安もあった。事前にルートを調べても 3 級程度、浮石が多い等の記録のため、難しいのか、易しいのかよくわからなかった。

南壁班は 4 名参加の計画が 1 名がキャンセルで、O さん、T さん、私の 3 名だった。順番待ちや落石の危険を避けるため、午前 2 時に出発した。

平蔵のコルから A 2 取り付きのテラスまでは残雪があり、ピッケルとアイゼンを使って滑落しないように 1 歩 1 歩慎重に進んだ。1 P 目は岩が濡れていて滑りそうで嫌な感じだったが O さんがリードしながら登った。2 P 目からは岩も乾きホールドもハもケンも沢山あったため安心感があった。登攀中は、先行するパーティーも後続パーティーなく我々のパーティーだけのため自分たちのペースで登ることができた。

交代でリードしながら登る 3000 メートルの岩壁は、高度感抜群で眺めも最高だった。本峰頂上で源次郎班と合流した。去年の私達が登ったときよりも 2 時間も早いペースにビックリした。八つ峰班も暗くなるまでに帰幕できて良かった。

錬成に参加した皆さんありがとうございました。

(感想 大川)

今年で第 2 回目となった剣岳錬成山行。今回の企画のリーダーは N さんと Y さんが立候補して頂き、2016 年 10 月にスムーズに立ち上げることができた。

参加申出はトレーニングのみの参加希望の方も含めて 1 名。参加希望者が自主的にトレーニングを企画する形で開始した。その後 2017 年 5 月と 7 月に打合せを行い、体の故障、仕事・家庭の事情、体力面での不安等から、本番辞退者が出てきた。最終的にアタックしたメンバーは、本峰南壁チーム 3 名、源次郎チーム 3 名、八つ峰縦走チーム 2 名の計 8 名となった。

本番に至までのトレーニングには、延べ多数の会員の参加があり、本番に行かなくても、各々の RC 技術、体力の向上につながったと思う。

さて、本峰南壁 A 2 チームは、私と K さん、それに本格的アルパインクライミング初めての T さんの 3 名。場合によっては、その日の内に下山できるよう、出発を早め、午前 2 時にスタートした。平蔵のコルから A 2 取付きまでは、去年とは違い、しっかりと雪渓が残り、アイゼンとピッケルでトラバースした。A 2 の取付きは鮮明な外形したテラスで分り易かった。先行パーティーはなかった。そこから 7 ピッチ、基本的には 2 ピッチ毎にリードを交代する形をとった。ハケンや沢山あり、ピナクルも支点構築に有効であった。途中ルートが右か左か分り難いところがあったり、リード交代の時に一度ザイルが絡まったこともあったが、後続パーティーを見ないまま無事登頂成功した。

アルパインクライミング初めてのTさんもリードを行い、終了点の支点の構築、ザイルの引上げに苦勞をしたが、無事完了。良い経験になったと思う。

このルートは標高 3000 メートル近い岩稜の登攀で、眺めがすばらしく、快適なラインだった。

他の 2 チーム 源次郎チーム（剣岳山頂で合流した）八ツ峰チームも全員登頂成功し、大変良い練成山行となった。

今回の成功を礎にして、来年度の練成山行につなげたい。

報告者氏名 大川 肇

平成 29 年 8 月 23 日

